



広安里

発行 釜山日本人学校

釜山広域市水営区民楽洞173-8

TEL 051-753-4166

FAX 051-756-4851

<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>

平成
17年度
第6号

思い出

P T A 会 員 長谷川 正男

釜山日本人学校に入学して早くも12年。(子ども3人) あっという間の12年間でした。来年3月には、この釜山日本人学校ともお別れです。運動会、P T A バザー、校舎の大改修工事、先生方との交流等たくさんの思い出がありました。数ある思い出の中で、私が交流してきた先生方との出来事を書いてみます。

T A N 校長先生は、子どもの入学手続きのため学校を訪れたとき、「通学バスルートは決定済みなので長谷川さん1人のためにルート変更はできません。」とおっしゃったことが印象的です。通学方法は家庭で考えることと、長い通学時間を頑張って通学することの2点を了解すれば入学を許可しますとのこと。最初の印象通りルールを守ることにかんしては、大変厳しい先生でした。

T A K 校長先生は、社会的で日本人会、P T A との交流を大事にされていたようです。多趣味で保護者、運営委員、職員とよく楽しんでいました。

K I K 校長先生は、習字の担当をされていて、習字の時間、練習は古新聞に、清書は半紙にされていました。子どもは家へ帰るなり「お父さん練習はなぜ古新聞にするの？」その答えは「校長先生に聞きなさい。」 K I K 校長先生には、学校の備品等の取り扱いを通して、物を大切に使用することを教えていただきました。

M A S 校長先生は、体を動かすことが大変好きな先生で、休み時間など時間を見つけては、サッカーやテニス等を児童、保護者と楽しみ、コミュニケーションを取られていました。子ども達にスポーツを通じて、ルールの大切さを教えていたようです。

今年赴任された野原校長先生は、まだよく分かりませんが、但し、兵庫県川西市から着任されたらしく、怒ると非常に怖い先生であることを私が保証します。何故なら私は神戸人だからです。くれぐれも校長先生を怒らせないように。

ある教頭先生は、毎朝正門前の道路を隅から隅まで清掃されていたようで、それまで日本人学校に対し反好意的だったおばあさんと仲良くなり、いつしかその方は、学校に好意的になりました。また、木登り名人の教頭先生、お隣の敷地に校庭の植木の枝がはみ出し、落ち葉が迷惑をかけているのを見て、3年間毎日、植木を管理されていました。

子ども達が伸び伸び学校生活を送られているのは、先生方のこういった努力が実ったものであると思います。先生に感謝、感謝、感謝。

青鶴洞

P T A 会 員 金 善 姫

今年の夏は特に暑かったのですが、もう秋々も過ぎ、秋が間近に迫っていますね。朝晩には涼しさを肌で感じるようになったのは、神様の大切なお土産ではないかと、今更のように感謝の気持ちでいっぱいです。

韓国で生活するようになった小学校の夏休みを、無意味に過ごすよりかは、何かちょっと意味がある体験をさせた方が良いのではないかと、いろいろ訪ねていたところ、友の勧めに応じて智異山の青鶴洞にある、蒙養堂禮節学校の4泊5日になる、教育プログラムに参加させることにしました。ですが、いざとなるとある程度不安を感じました。

蒙養堂という所は、昔の韓国の伝統方式にしたがい、学堂を開き、礼儀や瞑想や読書や漢文などを教えるほか、羽子遊び、ウサギの駆り立て、黄土布染め等もするし、川辺で木の葉の船作りなどの伝統文化の体験教育もする所です。教育を受ける4泊5日間は親との電話連絡など一切許さず、テレビを見たりゲームをしたりするのは、考えられません。若し何かあったら学堂の人が、直接親に連絡するシステムになっております。それでもっと心配になっておりました。今の子どもは、1日でもテレビを見なかったり、ゲームをしなかったりすると、すぐに不安を感じるからです。

出発する日、集合場所でバスに乗って、手を振る洋介を見ていると、何となく心が不安になりました。4泊5日をどう送ったかも知らず、帰りの日に迎えにいきながら、若し洋介が辛かった、ご飯もろくに食べられなかったと泣いたらどうしようかと心配しながら待っていました。ですが、バスが着き明るく健康な姿で笑いながらバスから降りる洋介を見たら、嬉しくて有り難くて、よくも行ってくれたと鼻先がじいんと熱くなって来ました。どうだったかと聞いたら、楽しかったし面白かったと言うので、テレビもゲームもしたかったのではと聞くと「いいえ。」と返事をしました。

しかし、家に着くやいなやりモコンを持ち出し、テレビをつけました。一瞬やっぱりなとがっかりしましたが、やはり現代文明世界に住んでいた子どもが、数日間他の世界に行っていたとして、すぐ普段の行動が変わるはずがないと理解しました。

とにかく洋介も普段には接することが難しい、4泊5日の独特な文化体験に対して満足しているみたいだし、私もその体験が洋介に良い勉強と思い出になったはずだと思うと、甲斐ある夏休みを送ったような気がして嬉しく思っています。